

令和元年度（前期） 医療と介護の連携のための地域ケア会議（日常生活圏域レベル）実施状況

校区	担当	テーマ	目的・内容	参加者	会議の成果	今後の展開
八木北	ケ ア ミ ナ シ テ ー ジ	多職種との連携について 「事例検討～認知症の方への対応と関係機関との情報共有について」	認知症の方と関わった場合の相談先について、医療と介護の連携を考える。	内科医師、薬剤師、介護支援専門員、訪問看護、通所リハビリ、通所介護、グループホーム、他	各事業所が事例と同様のケースを抱えており、それを関係機関に相談できるということが確認できた。	医療機関へ医療介護連携の活動状況報告書を持参する。情報共有や薬剤師とケアマネの連携など「認知症に関して相談できる環境」をテーマとして考えていく。
八木南	イ ン パ レ ス	理学療法士の視点から医療介護連携を考える	専門職の視点からの話を聞き、よりよい連携に繋げる。	内科医師、薬剤師、介護支援専門員、訪問看護、訪問介護、通所介護、通所リハビリ、福祉用具、薬剤師実習生、他	専門職視点の意見を聞くことの大切さ、多職種で対応する意識を日頃から持つことの必要性を感じてもらえた。	訪問介護の視点から医療介護連携の話が聞けないか、9事業所と地域のサロンや教室の話をしていく。
畷傍	平 成 ま ほ ろ ば	これからの畷傍中学校区における医療介護について考える	各事業所の課題を共有し、地域課題を解決する会議であることを再認識する。	内科医師、薬剤師、作業療法士、社会福祉士、介護支援専門員、訪問看護、訪問介護、通所介護、施設長、他	地域ケア会議の趣旨を理解してもらえた。 今後検討していく課題や連携についてなど、様々な意見が得られた。	各事業所のアピールポイントが分かるものを作成する。 医療介護事業所間で協働しやすい機会を作る。
白檀	檀 原 園	在宅における管理栄養士の専門的支援について	医師から提案された「疾患に関して日々の食事管理の重要性」をテーマとして、Q & A形式にて講演を行った。	内科医師、歯科医師、薬剤師、訪問看護、介護支援専門員、訪問介護ヘルパー、他	参加者の意識改革や支援のレベルアップに繋がった。	在宅での支援において、医療との連携や病気への知識・在宅支援をレベルアップしながら、なお一層の地域でのネットワーク構築ができるよう検討していく。
光陽	桃 寿 園	多職種連携を考える～連絡ノートの活用にに向けて～	連絡ノートの利用頻度を増やしてもらうために、活用方法を検討する。	内科医師、歯科医師、薬剤師、介護支援専門員、訪問看護、通所介護、短期入所介護生活、福祉用具、訪問入浴、他	各事業所で連絡ノートを試用してもらうことになった。	連絡ノートを実際に使用してもらい、意見を聞いていく。地域の事業所、医療関係者などに会議の報告も兼ねて連絡ノートを配布する。
大成	か な は し 苑	専門職の連携と地域の生活をつなげる為に～地域の生活を中心に置いた医療介護連携の在り方～	専門職連携と地域が繋がり、その力を地域に還元することで、介護予防へ繋げるといった認識のきっかけにする。	内科医師、歯科医師、薬剤師、看護師、介護支援専門員、通所介護、管理栄養士、社会福祉士、精神保健福祉相談員、他	医療介護と地域のつながりについての認識は共有できた。何か一歩踏み出したいという意見、方法についてアイデアが出た。	出た意見を参考にできることから進めていき、実施できた事例から今後の方向性を検討する。
檀原	檀 原 の 郷	檀原中学校区の支援困難事例から共通する医療介護連携を考える	支援困難事例の傾向を見て、医療と介護の連携により、何ができるか検討する。	内科医師、薬剤師、主任介護支援専門員、介護支援専門員、訪問看護、奈良医大実習生、他	病識がない当事者や家族が多いという傾向が見えたため、それに対して何ができるか話し合った。	地域に向けた講座や教室で何を提供できるか、参加者各々が資料を持ち寄りたたき台を作る。